

高橋正敏さん (LVHM・ゼニス役員) のドングリ育苗体験 2016 シーズン

LVHM (ルイ・ヴィトン) 高級時計部門 ZENITH ジェネラルマネージャーの高橋正敏さんの趣味はゴルフ。ゴルフ専門誌にもそのライフスタイルが紹介されていますが、家庭では「どんぐり育苗キット」の愛好家！ 仕事の合間にドングリを育て、植樹祭や育樹祭にも参加下さっています！



2016年2月7日



2016年3月17日

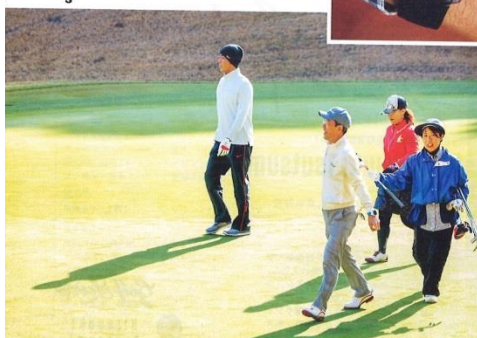


2016年4月9日



最善を尽くし
楽しいゴルフを。

この日、高橋さんがつけていたのは、昨年発表されたゼニスのスポーツモデル、「エルプメロ スポーツ」(¥910,000)。スポーツ的なデザインが光る、世界最高精度を誇るエルプメロ搭載のクロノグラフだ。



「ゴルフはゲーム性の高いスポーツ。同じコースを回っても、一度として同じ場所から打つことはできません。だから、何度やっても飽きないんですね。(スコアは)山あり谷ありで、今でも90叩くことがありますし、1打締めるのは本当に大変。でも、うまくいった時の達成感、仕事で得られる高揚感に通じるものがあります」
 そう言いながらも、穏やかな笑みを浮かべる高橋さん。米・レッドソックスの上原浩治投手からのラウンド中も、自身の球の行方に一言一憂することなく、常に笑顔。仲間のナイスプレーには惜しみない賞賛を送り、肩を落とすようなミスには励ましの声をかけながら、スコアはきっちりまとめる。世界的ラグジュアリーブランドを牽引するリーダーらしい、「紳士的で懐の深いゴルフ」といわれる。 「いやいや、けっこう乱れていましたよ。」と、ライバーでバーンと飛ばすのを見て、「よかんだりしてね(笑)。ゴルフはミスなど、つくづく思います。でも、ゴルフアウトするまでわかりませんから、次はどうすればいいかを考え、軌道修正をする。そうやって、最後まで最善を尽くすことだと思います。仕事と同じですね。仕事も、ずっと右肩上がりということではなく、必ず下がる時が来る。そこで、逃げずに踏ん張れるかどうかだ」と。ゴルフには、その人の仕事に対する姿勢はもちろん、生き様まで表れてしまうようだ。 「確かに、一緒にゴルフをすると、どんな人なのかよくわかります。それに、長時間一緒にするので、じっくりコミュニケーションがとれますし、お互いにリラックスしているせいか本音も出やすいですね。ゴルフのおかげで意気投合し、商談がスムーズにまとまったということもありました」
 仕事をするうえで、ゴルフができて得ることはあっても損することはない。だからこそ、「ゴルフに興味があるなら、できるだけ早く始めたほうがいい」と、高橋さん。 「ゴルフデビューしたのは25年以上前ですが、本格的に行うようになったのは、子供が大きくなり、週末に時間がとれるようになったこと10年。レッスンを受けて、集中的にラウンドするなどして、なんとか今のレベルまで到達できました。でも、あと10年早くスタートしていれば、もっとうまくいったんじゃないかな(笑)」



アカガシのドングリ 20粒 100% 発芽に成功!



2016年6月12日



2016年5月22日



2016年4月17日



2016年5月1日

